

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立深小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均(全国を50とする)

		全体
国語	前年度結果 偏差値平均	46.8
	本年度結果 偏差値平均	47.1
算数	前年度結果 偏差値平均	49.2
	本年度結果 偏差値平均	51.5
理科	前年度結果 偏差値平均	51.6
	本年度結果 偏差値平均	54.7
全体	前年度結果 偏差値平均	48.3
	本年度結果 偏差値平均	49.6

2. 調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて)	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)
<p>●国語科では、「情報を選び構成を考えて書く」で3学年(第6学年:62.9%、第5学年:33.6%、第3学年:52.0%)、「考えや感想をまとめ伝え合う」で3学年(第6学年:52.3%、第5学年:33.2%、第3学年:30.0%)、学年別配当漢字で、3学年(第6学年:50.0%、第3学年:77.6%、第2学年:88.0%)で全国平均より下回り、課題があった。</p> <p>●算数科では、「表や折れ線グラフ」で2学年(第3学年・第5学年)(49.3%)、「時刻の読み方、時間の単位」で2学年(第2学年・第3学年)(55.0%)に課題があった。</p> <p>●理科では、第6学年が「流れる水の働きと土地の変化」(60.3%)、「電磁石と電流の働き」(66.4%)で課題があった。</p>	<p>●国語科では、漢字の書き(42.9%)、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。」(42.9%)、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」(42.9%)、「読むこと」の領域で、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」(42.9%)の正答率が低く、複数の資料からの読み取りや自分の考えをまとめて、自分の意見を考え書くことに課題がある。</p> <p>●算数科では、「数と計算」の領域で、「66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位にあたる式を選ぶこと」(14.3%)、「図形」の領域で、「正三角形の性質についての理解」(28.6%)、「面積の大小判断をし、理由を記述する(28.6%)」の正答率が低く、筆算を具休物や図に表すことで、式と関連付けて考察することや図形の性質の理解に課題がある。</p>

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

③全国学力・学習状況調査 正答率平均口(第6学年対象)

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	66 (-1)	63 (-1)
本年度結果 (対県比)	71 (+2)	65 (+1)

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】 ○全児童が、授業で「わかる・できる・もっと」を実感し、課題解決に向けて主体的に取り組めるようにする。</p> <p>○全教諭が、児童に育成したい資質・能力や個のつまずきを把握し、個に応じた指導・支援の方法を考え、個のつまずきに応じた指導・支援を行えるようにする。</p>	<p>基礎学力を定着させるために、 ①算数科を中心に、課題とまとめが繋がるようにし、適応題・振り返りを確実に実施し、理解度を評価する。また、隔週で児童のノート交流を行うことで全校児童の実態を全教員が把握できるようにする。 ②ドリルタイムでは、校内検定(漢字・算数・理科)、読み上げシート、アシストシートや類似問題等で復習し、状況に応じて内容を解説するなど、児童の実態に応じた課題を行う。</p> <p>主体的・協働的な学習を推進するために、 ③児童間授業交流を実施し、学び方の定着と学び合いの充実を図る。 思考力・判断力・表現力の向上のために、 ④自分の考えと根拠を明確にした表現の場を意図的に設定し、相手意識・目的意識を持って伝えられるようにする。 ⑤全体交流では、順序の言葉や根拠を明確にした表現をさせ、児童が思考・判断して考えを比較・関連付けができるようにする。</p>	<p>①ノート交流を月2回実施 (12月、3月は月に1回)・1人2回以上の授業研究の実施 ②週3回(全校一斉校内検定・類似問題検定は学期1回以上) ③学期に1回以上 ④学期に1回以上 ⑤ノート交流時に確認</p>	<p>・Q-U2回目の学習意欲の数値向上(全学級で1回目以上) ・各単元末テストの期待得点(80点)以上の児童の割合(全学級80%) ・学習アンケート 児童アンケート及び教職員アンケート(肯定的評価80%以上) ・2、3学期末に実施する類似問題の校内テスト正答率(80%以上)</p>
<p>【学級・学習集団づくり】 ○全児童が、学校生活を通して、達成感や自己有用感を味わえるようにする。</p> <p>○全職員が、個の実態を把握・共有し、個の実態に応じた指導・支援を行えるようにする。</p>	<p>①暮会等で、気になる児童について共有を図る。 ②学校経営会議、校内特別支援委員会等で児童の実態を把握し、適切な支援の方法を考え、取組を行う。 ③各学級や全校でのソーシャルスキルトレーニング(SST)を実施する。 ④係活動や委員会活動、縦割り班活動を計画的に実施し、振り返りを月1回以上行って、評価する。 ⑤Q-Uの分析による実態把握と課題の共有を行い、学級の課題に応じた面談、学級づくりの取組を実施する。</p>	<p>①週1回暮会時 ②月1回以上 ③月1回(第3金曜日) ④月1回以上 ⑤1月～4月</p>	<p>・Q-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1回目以上)</p>